

# 災害へ備える心を つくるサイン

災害時、正しく避難するには自分の住んでいる地域の地形を知ることが重要です。地形の指標の一つである海拔を知り、災害への心構えを持ちましょう。

串間市建築士会青年部部長  
加藤弘明さん



海拔とは海水面を0mとしたときの山や陸地の高さのことです。海拔の低い場所は、地震などの災害時に、津波などの水害に遭う可能性が高くなります。海拔を知ることが、避難が必要とき、どちらの方向に避難すればよいかの大事な指標の一つです。しかし、自分がいる場所の海拔を調べるのは大変です。そこで、串間市建築士会青年部の皆さんを中心に、市と協働で、市街地や沿岸部などに海拔表示のサインを今年、設置しました。普通の看板や標識とは違い、情報を伝えながらも、風景と調和する表示ということをテーマとしたものが、このサインです。この機会に災害の視点から、お住まいの地域への理解を深めてみませんか。

今回の海拔表示サイン設置のきっかけとなったのは、やはり東日本大震災です。震災後の青年部の会議で子どもたちに、災害への心構えを持つきっかけ作りとなるような取り組みを行おう、という意見が出ました。そこでまず、小中学校や保育園などへの海拔表示のサイン設置を行いました。その後、市役所総務課の危機管理係の方から、避難所などへの

海拔表示に協力してほしいとの話があり、市内の31カ所に海拔表示サインを設置しました。市からは材料費を提供してもらい、作成、設置は建築士会青年部が担当しました。すべてボランティアでの活動でしたのでとても苦労しました。しかし、青年部の全員が熱意をもって設置作業に当たり、今ではやりとげた達成感を感じています。

地震や津波などはいつ起きるか分かりません。そのため大事なことは、普段から災害に備える心構えをもつことです。この海拔表示を見ることが、市民の方が「今、自分はこのような場所にいるのか」「災害時にはどちらに向かっただけで避難すればいいのか」などを考えるきっかけとなってくることが大事なことだと思っています。

宮崎県建築士会まちづくり委員  
河野秀親さん



今回、建築士会青年部の皆さん

が作った海拔表示サインのデザインを担当しました。デザインするにあたって気をつけたことは、人の目につきやすく、景観と調和することです。実は今回の海拔表示サインは、平成21年度に都井岬に設置した観光案内の表示と同じデザイン方法を使っています。サインを見てもうれば分かりませんが、茶色の本体に白で文字を書くという方法です。形は周囲の状況に合わせて変更していますが、色合いはすべて同じものです。この色合いが一番、景観に溶け込むと同時に人の目にも留まります。また、ただ海拔を伝えるだけでなく、市内の景観向上にも貢献できるように統一感が出るデザインにしています。

今回の海拔表示サインの設置は、景観と調和する先駆的な取り組みです。また、土台をあえて作らない環境に配慮した設置物という点でも今までにない取り組みとして、宮崎県内で串間が注目されています。実際、県庁の方から問い合わせがあったり、他の市が串間の海拔表示を参考にしたりするなど、反響が起きています。このことがきっかけとなって、串間の活性化に少しでもつながってくれようという思いです。



① 海拔8m 市役所



② 海拔24m 総合運動公園



③ 海拔20m 総合体育館



⑦ 海拔17m 福島高校



⑫ 海拔3m 金谷小学校



⑬ 海拔26m 北方中学校



⑫ 海拔11m 港公民館



⑫ 海拔16m 市木中学校



④ 海拔20m 中央公民館



⑧ 海拔3m 有明小学校



⑬ 海拔24m 望洋の郷



⑬ 海拔3m 本城支所



⑬ 海拔10m 都井支所



⑬ 海拔9m 市木公民館



⑤ 海拔14m 福島小学校



⑨ 海拔6m 木代公民館



⑭ 海拔2m 下弓田公民館



⑬ 海拔28m 本城小学校



⑬ 海拔9m 都井小学校



⑬ 海拔4m 藤公民館



⑩ 海拔4m 高松公民館



⑮ 海拔10m 正国寺



⑮ 海拔34m 本城中学校



⑮ 海拔13m 都井中学校



⑮ 海拔4m 石波公民館



⑮ 海拔13m こばと幼稚園



⑥ 海拔16m 福島中学校



⑪ 海拔10m 常照寺



⑮ 海拔4m 北方小学校



⑮ 海拔3m 下千野公民館



⑮ 海拔11m 市木小学校



⑮ 海拔13m こばと幼稚園